令和８年度　　瀬田工業高等学校（定時制）　学校評価

本年度の重点目標

・「みんなで支えあい、自らを高める教育を推進し、未来をつくる心豊かでたくましい人づくり」を目指す。
・生徒の社会的自立に向け、基礎となる学力・技能・技術を身につけさせるとともにコミュニケーション能力の育成に努める。

領　域	重　点　評　価　項　目	中間評価(10月)	総合評価（３月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1　学校経営	全教職員が教育目標を共有し、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	教育活動の改善に向けて、学校の取組みを広く公表することに努めている。	A		
2　学習指導	基礎・基本の定着を目指し、教材開発や教授法の工夫改善に取り組んでいる。	A		
	資格取得や技能訓練を通じ、技術者・技能者としての資質を身に付けさせている。	A		
3　生徒指導	モラルやマナーを身に付けさせるよう、全教職員が計画的・組織的に指導している。	A		
	安心できる教育環境の確立を目指し、危機対応できる管理体制になっている。	A		
	「いじめ」に発展させないように個々の生徒の様子、人間関係等を的確に把握し対応することに努めている。	A		
4　進路指導	系統的にキャリア学習を行い、早期に自立への意識を高めるよう指導している。	A		
	自己実現が図れるよう、産業界への働きかけなど生徒支援体制の確立に取り組んでいる。	A		
5　特別活動等	ＬＨＲ活動を通じ、自己の生き方や働く意義等を自覚させている。	A		
	生徒会行事を通して、人間関係をうまく築けるよう指導している。	A		
6　学校図書館	図書ガイダンスや読書会、読書指導を通じ、読書への啓発や読書習慣の定着を図っている。	B		
	授業やＬＨＲなどで図書室を有効活用し、教育情報の中枢としての図書室活用を進めている。	C		
7　保健・安全指導	生徒の健康管理と病気の予防等を適切に行うため、組織的・継続的に保健指導を推進している。	A		
	生徒の事故・怪我・病気等に適切に対応できる管理体制と日常の相談体制の充実に努めている。	A		
8　人権教育	人権に関わる問題の学習を進め、思いやりや人権尊重の精神を育てている。	A		
	教育相談活動を進め、全教職員の生徒支援体制の確立と研修の充実を図っている。	A		
9　環境教育	清掃ボランティアなどの実施を通じ、環境美化の意識および態度を養成している。	A		
	滋賀県環境マネジメントシステムの観点に基づき、ゴミの減量化や分別、リサイクル等に積極的に取り組んでいる。	A		
10　事務・管理	施設・設備の安全点検や保守点検などを進め、教育環境の充実と計画的な整備を進めている。	A		
	適正な文書管理や事務効率化に取り組んでいる。	A		
11　その他 学校の取組	「学び直し」を支援する学校づくりを進め、自主的・自律的に行動する力を育成している。	A		
	働きながら学ぶ環境の整備に努めるとともに、休・退学者や復学者に対する適切な指導に努めている。	A		

（注）・評価表の見方：　６月　学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
１０月　中間評価（自己評価）の公表（８月までの教育活動に対する中間評価）ＡＢＣＤの４段階評価で示す。
３月　総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）ＡＢＣＤの４段階で示す。
・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
・ＡＢＣＤの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。

学校のＵＲＬ：https://www.seta-h.shiga-ec.ed.jp/